

海外図書館事情

～海外短期研修でみた米国大学図書館～

広島経済大学図書館 宮原 幹麻



< 米国ワシントン大学Suzzallo Library 外観 >

< 米国ワシントン大学Suzzallo Library カフェ >



第3回中国四国九州沖縄地区フレッシュメンバーセミナー

海外研修プログラムについて

国立大学図書館協会

- 米国イリノイ大学モーテンソンセンターアソシエイツ・プログラム（8週間） * H21年度は休止
- H21年度は短期海外派遣で米国へ
- 諸外国の先進的な図書館活動、施設等に関する調査・研究

私立大学図書館協会

- 海外派遣研修(8週間)
米国イリノイ大学モーテンソンセンターアソシエイツ・プログラム
* H21年度は参加者無し
- 海外集合研修(約1週間)
H19年度まで米国、H20年度は韓国へ派遣

研修を受けた大学図書館の概要



< Suzzallo Library Reading Room >

ワシントン大学図書館

- ワシントン州シアトル
- 1861年創設の州立総合大学
- 学生数: 約4万人
- 中央図書館と分館合わせて21館
- 蔵書数: 700万冊
- 利用者数: 約10万人/日
(延べ数: 中央図書館)

日本との相違点① 雇用制度

～ワシントン大学図書館の場合～

ライブラリアン

- 直に図書館と雇用の契約を交わしている専門職
* 州や大学に雇われているのではない
- 図書館学修士号以上を取得
* サブジェクトライブラリアンは図書館学と専門の修士号

ライブラリースタッフ

- 州によって雇われている州の職員
- 異動はない
- 大卒以上

日本との相違点② 外部資金の獲得

～ワシントン大学図書館の場合～

割り当てられる予算は削減傾向・・・

最終的な図書館予算は潤沢

外部資金の調達が活発

- 外部資金を集めるためのセクションがある
- 卒業生や学生の両親、地域からの寄付
- 多種多様な49の寄金がある
* オンラインで寄付ができるシステム

変革する図書館① ラーニングcommons



< Odegaard Undergraduate Library 外観 >

Odegaard 学部学生用図書館

→ラーニングcommonsへ

1997年 伝統的な図書館から変革
インフォメーションcommonsがスタート

- 24時間開館
- 飲食OK
- 会話OK

変革する図書館① ラーニングコモンズ

7



< Information-Commons >

< Active Study Space >



変革する図書館① ラーニングコモンズ

8



< Odegaard Undergraduate Library内部 >

ラーニングコモンズ

1つの建物の中で一連の学習活動が全てできる！

- 情報収集
- グループ学習
- ディスカッション
- プレゼン資料の作成
- 論文執筆の相談 …等々

サービスの拡大に伴い、他部署と連携

変革する図書館② Webサービスの発達

9

オンラインレファレンス

- Eメール
- 主題別電子資料一覧
- チャット

オフキャンパスアクセス

学外からもデータベースや電子資料が利用可能

電子資料の充実

データベースや電子ジャーナル、電子新聞

指定図書を提供

- すべての指定図書をデータベース化
- 電子リザーブ(授業で配布された資料を電子化)

変革する図書館の背景

10

～変革の要因～

- 図書館を取り巻く環境の変化
- 学生の学習スタイルの変化

利用者中心の図書館

「利用者がいるところが図書館である」という考え方

利用者による図書館サービス評価

- 利用者の視点から既存のサービスを改善
- 柔軟に新しいサービスへ挑戦

より良いサービスを提供するため変わり続ける

最後に・・・

11



- 海外研修のススメ

ご静聴ありがとうございました